

米9月雇用者数は+33.6万人と市場予想を上回る

～平均時給は市場予想を下回る～

◆失業率は市場予想よりやや悪化

10月6日発表の米9月雇用統計では、非農業部門雇用者数が前月比+33.6万人と、市場予想(+17.0万人)を大きく上回りました。7月分(+15.7万人→+23.6万人)と8月分(+18.7万人→+22.7万人)も計11.9万人の上方修正となりました。

失業率は前月実績と同じ3.8%で、市場予想(3.7%)を小幅に上回りました。労働参加率は62.8%と、2020年2月以来の高水準だった前月から横ばいでした。民間平均時給は前年同月比+4.2%と市場予想や前月実績(ともに同+4.3%)を下回りました。

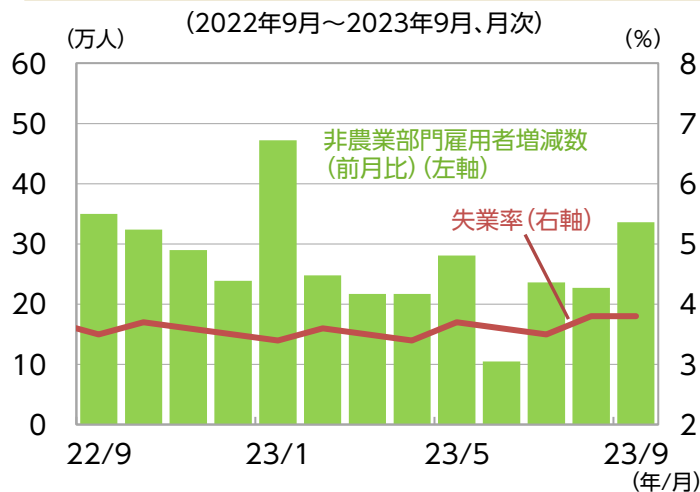
9月雇用統計は、失業率の上昇や平均時給上昇率の伸び率鈍化から、労働需給の過度のひっ迫状態が徐々に和らいでいることがうかがわれました。半面、非農業部門雇用者数の伸びが市場予想を大きく上回って加速したことが、米国経済の力強さを改めて示したとも言えそうです。

◆市場の反応、今後の焦点

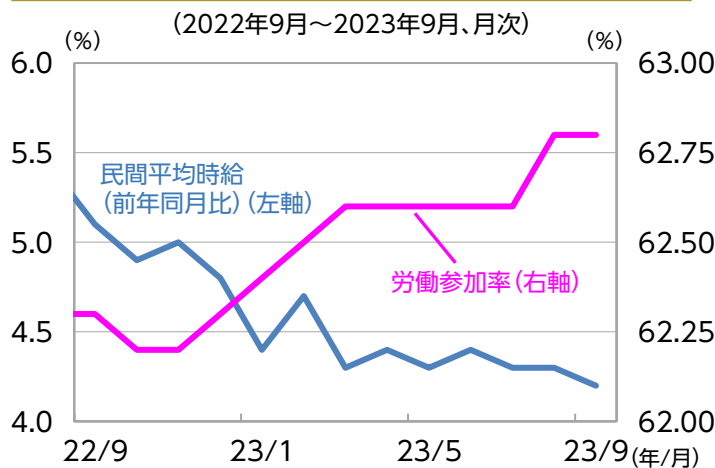
6日の米国市場では、雇用統計を受けて、FRB(米連邦準備理事会)の年内追加利上げ観測が強まり、長期金利が一時的に4.8%台後半まで上昇しました。為替市場では、公表直後に一時1ドル=149円台半ばまでドルが上昇する場面がありました。NYダウは、公表直後は金融引き締め懸念から軟調に推移していましたが、その後は上昇して終えました。米国景気の底堅さを改めて材料視したとみられます。なお、米国株式は、日本が祝日だった9日も上昇しました。ジェファソンFRB副議長らが、追加利上げの必要性に慎重な姿勢を示したことが追い風になりました。

次回FOMC(米連邦公開市場委員会)は、10月31日-11月1日に予定されています。金融市場では、年内利上げの有無や今後の政策金利の経路に関心が集まっています。12日公表の米9月CPI(消費者物価指数)や、週末のイスラエルにおける武力衝突で高まった地政学リスクの帰すうを注意深く見極めていくことになりそうです。

【図1】非農業部門雇用者増減数と失業率



【図2】民間平均時給と労働参加率



【図3】雇用統計公表日の海外金融市場動向

	10月6日 終値	前日比	
		変化幅	騰落率 (%)
NYダウ (米)	33,407.58	288.01	0.87
S&P500 (米)	4,308.50	50.31	1.18
ナスダック総合 (米)	13,431.34	211.51	1.60
FTSE100 (英)	7,494.58	43.04	0.58
DAX (ドイツ)	15,229.77	159.55	1.06
米国10年国債利回り	4.80%	0.08	-
米ドル/円 (円) ※	149.32	0.81	0.55
WTI原油先物	82.79	0.48	0.58

※米国市場の終値

(信頼できると判断したデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成)

【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。